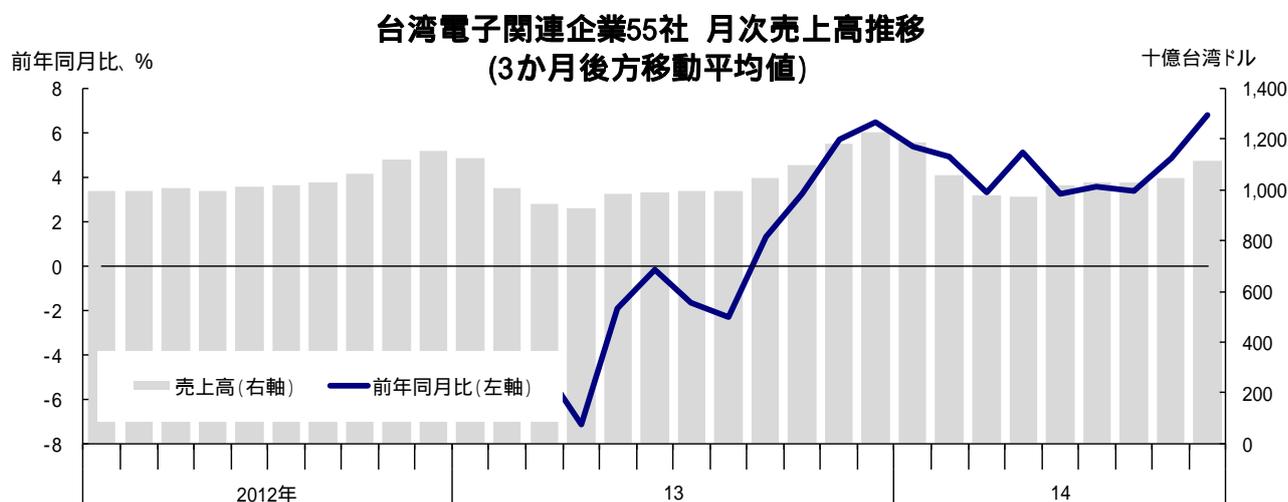


台湾電子関連企業 月次売上高 (2014年9月)
iPhone向けは好調だが中国スマートフォン向けに減速感

台湾電子関連企業 55 社の 9 月売上高は 9 か月ぶりに前年同月比 2 ケタ%増

- 台湾の主要電子関連企業 55 社（台湾証券取引所に上場している主要な電子関連企業を浜銀総合研究所が抽出）の 9 月の売上高は、前年同月比 11.9%増（前月比 23.1%増）と、2013 年 12 月以来、9 か月ぶりに前年同月比で 2 ケタ%増となった。また、3 か月後方移動平均値も同 6.8%増（同 6.7%増）となり、伸び率を拡大させた（図表 1）。台湾企業の月次売上高は、世界の電子部品・デバイス市場の先行指標となる。台湾企業の動向から、電子部品・デバイス市場のモメンタムが再び強まっていることを確認できる。
- 好調なのは iPhone 6 シリーズを手掛ける企業である。特に、8 月まで売上高が低迷していた EMS（Electronics Manufacturing Service、電子機器の受託製造）企業の 9 月の売上高が前年同月比および前月比で大きく伸びており、懸念されていた iPhone 6 シリーズの歩留まり問題に関しては概ね解消したと判断している。
- ただし、中国スマートフォンメーカー向けの LSI 設計を行う企業の増勢が弱まっており、中国スマートフォン市場に減速感が出てきた可能性がある。

図表 1 iPhone 6 効果によりモメンタムが拡大



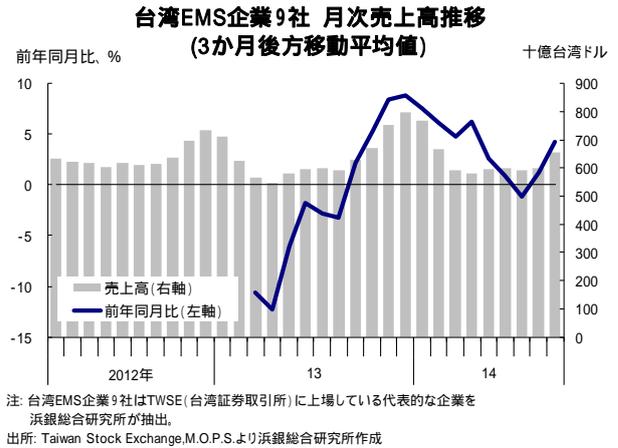
注: 台湾企業55社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

EMS の 9 月売上高が大幅に伸長、iPhone 6 シリーズの歩留まり懸念は払拭されつつある

- 台湾電子関連企業 55 社を手掛ける品目ごとに分類すると、EMS の伸長が目立つ。EMS 9 社の 9 月の売上高は前年同月比 12.5%増（前月比 36.6%増）となり、8 月までの低迷状況から一転して大きく伸びた。3 か月後方移動平均値も同 4.3%増（同 9.3%増）となり、モメンタムは再び強まる傾向にある（図表 2）。

- 8月までは iPhone 6 シリーズ向けの部品を手掛ける企業の売上高が伸びる一方で、組み立てを行う EMS の売上高が低迷していた。そのため、iPhone 6 シリーズの歩留まりに問題あり、初回ロット数が限定的となる懸念が浮上していた。しかし、9月の EMS の売上高が急ピッチで拡大していることから、歩留まりに関する懸念は概ね払拭されたと考える。ただ、10月15日に iPhone 6 向けの中小型パネルを受注したジャパンディスプレイが、大口顧客への出荷遅れなどを理由に業績の下方修正を行うなど、企業によっては iPhone 6 シリーズの生産が遅れたことによる影響が出ている模様である。

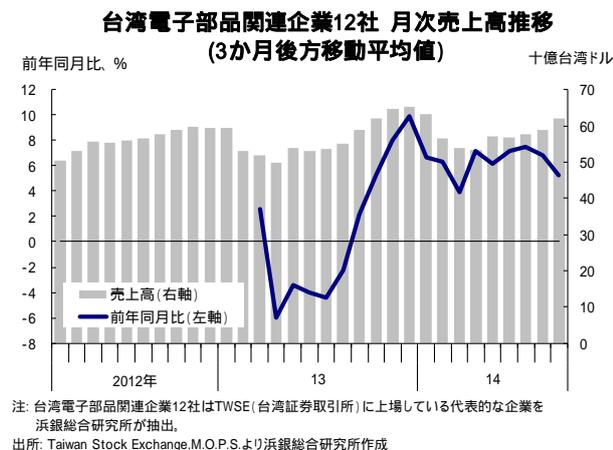
図表2 EMS 企業の増勢が強まる



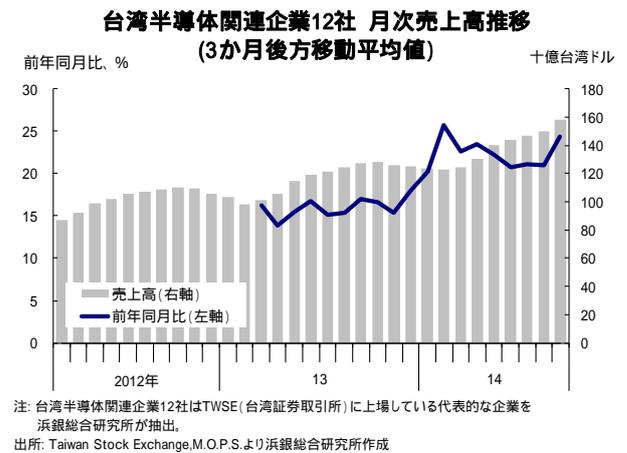
電子部品関連企業、半導体関連企業ともに iPhone 向けは引き続き好調

- 電子部品関連企業 12 社の売上高は前年同月比 4.6%増 (前月比 6.9%増)、3か月後方移動平均値では同 5.2%増 (同 5.3%増) となった (図表3)。引き続き iPhone 6 シリーズ向けの部品を手掛けている企業の売上高が伸びており、プリント配線板 (HDI 基板) を手掛ける Compeq の単月の売上高が過去最高を更新するなど、iPhone 効果が如実に現れている。
- 半導体関連企業 12 社の 9 月の売上高は前年同月比 28.4%増 (前月比 6.7%増)、3か月後方移動平均値では同 24.4%増 (同 5.3%増) となり、伸び率を拡大させた (図表4)。iPhone 6 シリーズ向けを手掛ける前工程の TSMC のほか、後工程の ASE などの売上高が前年同月比および前月比で大きく伸び、半導体全体の伸びをけん引した。

図表3 電子部品関連企業は堅調



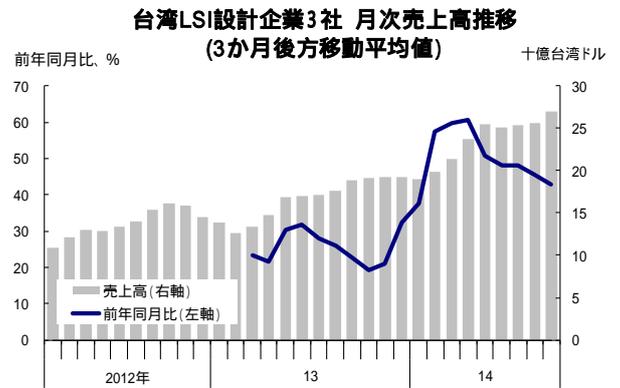
図表4 半導体関連企業の出荷は拡大



中国スマートフォン向けのLSI設計を行う企業の増勢が弱まっている点に注意

- ただし、半導体関連企業のうち、LSI設計を行う3社の9月の売上高は前年同月比39.1%増となり、8月の同47.4%増と比較すると伸び率が低下し、3か月移動平均値でみた伸び率も低下傾向にある(図表5)。さらに9月の前月比は2.9%減と3か月ぶりにマイナスに転じており、売上高の増勢が弱まる傾向にある。
- 増勢が弱まった背景は、中国スマートフォンメーカー向けに高シェアを有するMedia Tekの売上高が伸び悩んでいることによる。Media Tekの7~8月の売上高が高水準であったため、9月に一時的な調整が行われた可能性もあるが、好調であった中国スマートフォンメーカー向けの部品需要に、減速感が出ている懸念もある。

図表5 LSI設計企業の増勢が鈍化



担当：調査部 産業調査室 山鹿 亜紀子
TEL 045-225-2375
E-mail: yamaga@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。